

麻疹の排除のために中学、高校生のMR（麻疹・風しん混合）ワクチンがはじまります。

2008.04.09

昨年春、札幌・東京などを含め、大学生が集まるところで麻疹（はしか）の流行がみられたのは記憶に新しいところです。2007年9月、WHOと日本政府は麻疹排除に向けて、行動を起こすことを宣言しました。麻疹の排除とは、1年間に麻疹と確実に診断されるひとが人口100万人あたり1人未満であり、各地の麻疹を含むワクチンの2回の予防接種率が95%以上であることなどで定義されます。

2年前から、1歳での接種に加え、小学校入学前の子どもたちすべてにMRワクチンを接種することが始まりました。皆さんは、行政の広報に従い、接種されたことと思いますが、それ以上の学年のお子さんに対しては今年から5年間の経過措置として、中学1年生と高校3年生でMRワクチンをするようになりました。過去に、麻疹と診断された、あるいは風しんと診断されたにかかわらず、MRワクチンを使って100%のお子さんに免疫を与えるというのがこの5年間の経過措置の特徴です。

日本でも数年前に沖縄で大きな流行があり、2000名のお子さんが麻疹を発症し、8名の尊い命が麻疹によって奪われました。海外では最近、中国の新疆ウイグル自治区で麻疹の流行があり、1万1千人の子どもたちが麻疹にかかり、21名の方が亡くなりました。毎年冬になると流行が心配になるインフルエンザでもこれだけの高率で人が亡くなることはありません。麻疹は今でも人の命を奪う病気であることは間違いのないことです。

今年も神奈川県、東京都、札幌市などで麻疹の流行がみられます。流行の主体は、10-19歳のお子さんです。ワクチンをするにより95%以上のお子さんは麻疹のウイルスが仮に体に入ったとしても発症することは免れます。五月から函館市は中学校で集団接種、高校生は保健所で集団接種となります。北斗市は、北斗市内の医療機関で個別接種で行われます。夏休み前までに接種が終わるよう、子どもと時間を調整してください。なお接種にあたり、保護者の署名があれば、保護者の同伴は必要ないとされています。

詳しくは各市町村にお問い合わせください。